

平成 27 年 2 月 17 日

各位

会社名 株式会社ジェイホールディングス
 代表者名 代表取締役 澤畑 哲彦
 (JASDAQ・コード 2721)
 問合せ先 取締役 高木 宏
 電話 03-6430-3461

平成 26 年 12 月期通期(連結)の業績予想と実績値との差異に関するお知らせ

平成 26 年 11 月 13 日に公表しました平成 26 年 12 月期通期(連結)の業績予想と実績値に差異が生じたのでお知らせいたします。

記

1. 業績予想と実績値との差異について

通期(連結)(平成 26 年 1 月 1 日～平成 26 年 12 月 31 日)

(単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1 株当たり 当期純利益 (円 銭)
前回発表予想 (A)	1,610	△45	△48	△86	△49.32
今回実績値 (B)	1,426	△91	△101	△202	△112.25
増減額 (B-A)	△184	△46	△53	△116	△62.93
増減率	△11.42%	—	—	—	—
(ご参考) 前期実績 (平成 25 年 12 月期通期(連結))	877	△90	△94	△110	△72.31

2. 業績予想と実績値との差異が生じた理由

当社グループは、ゼロエネルギー住宅・低ランニングコスト住宅である独自開瘡外断熱工法住宅「イザットハウス」の提案等を行う「住宅事業」のほか、フットサルコート・サッカースクールの企画・運営を行う「スポーツ事業」、任意売却物件の仲介等を行う「不動産事業」、さらに顧客サービスのブランディング企画制作やセールス促進等を行う「WEB 事業」の 4 つの事業を展開しております。

今期は、売上ににつきましては、「住宅事業」が 1,152 百万円(予算 2,256 百万円)と、当社の中心事業であるソーラー部門が、建設業許可の取得の遅れ等による工事の遅延により完工数が当初計画の約半数にとどまることにより予算を下回りました。「スポーツ事業」は 146 百万円(予算 159 百万円)、「WEB 事業」は 85 百万円(予算 77 百万円)と概ね予算通りに推移致しましたが、「不動産事業」は当連結会計年度中に予定していた不良債権不動産の売買案件が全て来季にずれ込んだ事等が影響し 41 百万円(予算 443 百万円)となりました。

営業利益につきましては、上記理由により「住宅事業」が上記理由により 2 百万円、「不動産事業」が 11 百万円の営業損失となったため、全体の営業利益も予算を下回ることとなりました。

以上により、売上高は1,426百万円（前回予想比11.42%減少）、営業損失は91百万円（前回予想営業損益45百万円）、経常損失は101百万円（前回予想経常損失48百万円）、当期純損失は202百万円（前回予想純損失86百万円）となりました。

<住宅事業の状況>

住宅F C（フランチャイズ）・B P（ビジネスパートナー）部門におきましては、時代の流れに配慮したスマートハウスであり、潜在的な需要も多く今後の市場拡大が見込まれる“イザットハウスの外断熱住宅+太陽光発電システム+オール電化”により快適で暮らしやすい環境を実現した近未来住宅を提案してまいりました。政府が2020年までに普及を目指す「ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス」を先取りし、かつ東日本大震災以降、節電や防災性能の向上が急速に高まるニーズを捉え、平成24年から“長持ちする新エコ外断熱住宅”「ソラシア」の販売を開始致しました。高い断熱性及び気密性と最新の省エネ設備で消費エネルギーを大幅に削減し、太陽電池や燃料電池の創エネで「エネルギー収支ゼロ」を目指す先進住宅であり、新たな当社の成長ドライバーとして販売を推進致しましたが、住宅着工件数が前年度比で減少する厳しい環境のなか、顧客ニーズに迅速に対応した建売住宅や大手住宅メーカーの規格型商品、ローコスト系住宅の販売力に押されましたが、受注棟数は前年度経比で減少しました。建材販売につきましては、競合となる商品・サービスが多く企業間の競争が激しく、厳しい価格競争にさらされ低調に推移しました。今後、当社の中心事業であるソーラー部門につきましては、建設業許可の取得の遅れ等による工事の遅延により、完工数が当初計画の約半数にとどまりましたが、ソーラー部門の売上が大きく寄与し、売上高は昨年比でと大幅増となりましたが、ソーラー部門の初期投資が影響し、営業利益は昨年度と比較して減少致しました。

<スポーツ事業の状況>

フットサルコートは、定着したサッカー人気に支えられ順調に推移致しましたが、当連結会計年度中に相模原のテニスコートを廃止したことの影響により、売上高は昨年度比で減少致しました。

<不動産事業の状況>

不動産業界は活況でしたが、競合他社の増加により競争が激化したこと、及び、当連結会計年度中に予定していた不良債権不動産の売買案件が全て来季にずれ込んだ事が影響し、売上高、営業利益共に予算を下回りました。

<Web事業の状況>

当事業は主にサイトの運営管理、制作、保守管理の3つ業務を中心に構成されております。サイト制作では、大手ドラッグチェーンと締結した業務請負基本契約に基づく売上の計上等、更に、営業開発に注力し新規顧客の開拓が順調に推移する等、当初の計画通りに推移いたしました。

以上